

令和7年12月15日

教育長答弁実録

（教育委員会）

（問）高等学校の部活動について

現在の高校の部活動の現状と課題をどのように認識しているのか、教育長に伺う。

また、中学校の休日部活動の地域展開が令和8年度から推進される中、高校の部活動の今後の在り方について、どのように考えているのか、併せて教育長の所見を伺う。

（答）

学校教育活動の一環として行われる部活動は、スポーツや文化芸術活動を通じて、体力や技術の向上はもとより、異年齢の生徒や教員との交流の中で、好ましい人間関係の構築を図ったり、自己肯定感を高めたりするなど、教育的意義が大きいものと考えております。

本県の高等学校の部活動の現状といたしましては、7割から8割の生徒が加入し、学校や地域の特色に応じて、多様な部活動を行っておりますが、

- ・ 比較的小規模の学校におきましては、生徒数の減少でチーム編成ができないことから、競技種目によっては維持することが困難となりつつあることや、
- ・ 部活動顧問となる教員によっては、必ずしも競技等の経験や専門性を有しておらず、負担が大きいことなどの課題があるものと認識をしております。

このため、

- ・ 大会参加のための合同チームの編成などに取り組むことや、
- ・ 専門的指導のできる教職員がいない学校に地域で活躍する外部指導者を派遣すること

などにより、生徒のニーズに応じた競技種目等の維持や、教員の負担軽減に努めているところでございます。

高等学校の部活動の今後の在り方につきましては、部活動本来の教育的意義を踏まえ、将来にわたり生徒が継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむことができるよう、国の動向も注視しつつ、学校や地域の特色に応じて、活動機会の確保・充実に努めてまいりたいと考えております。